

【学位論文審査の要旨】

研究課題の意義：ネパールの母子保健指標（妊産婦死亡率、周産期死亡率、乳幼児死亡率など）は、以前に比べ少しずつ改善傾向にあるが、未だ、どの指標も高く、更なる母子保健の向上が求められている。ネパールでは、この課題に対応するための方策として、出産の費用、および出産のための病院までの旅費を無料とし、病院での施設分娩を推進することで、出産の安全性の確保に取り組んでいる。母子保健の向上のためには、出産環境を整えることだけでなく、新生児に適切なケアを提供することも重要である。ネパールでは、母親への育児に関する教育は、地域を中心に実施されてきているが、病院においては実施されていない。今後、病院出産が増加するネパールにおいて、新生児ケアに関する母親への健康教育は、母子保健の向上に必須のものである。したがって、本研究において、健康教育プログラムが開発され、その有用性が示されることの意義は大変大きい。この成果は、ネパールのような、妊娠出産、出生に伴う死亡率の高い国々のモデルともなり得る。

新規性：上述のように、ネパールにおける産後の母親に対しての新生児ケアの教育プログラムの開発は、はじめての試みである。また、本プログラムは、新生児ケアの知識として必須な事項および、ネパールの子育て文化の特徴を踏まえて作成されており、新規性が認められる。

先行研究のレビュー：本教育プログラムの開発にあたって、**health education on newborn care**、**Health education** について、網羅的にシステマチックレビューを実施している。さらに、本プログラムの評価指標として、母親についての先行研究レビュー、**Postpartum anxiety and depression**、**Maternal confidence** に焦点を当てて実施しており、本研究に必要な文献検討は十分に行われている。

研究方法の論理性・実証性：本研究では、成人教育の原理を背景とし、母親に向けた新生児ケアに関する教育プログラムを構築している。また、健康教育の内容は、WHOが提唱する新生児ケアの内容を含み、さらに、ネパールの子育て文化の中での不適切な新生児ケアに対する指導も包含しており、教育内容は妥当である。

研究実施にあたっては、介入群、対照群を設定し、ランダムに割り付けを行っており、方法として妥当である。健康プログラムの評価にあたっては、新生児の健康状態に加え、事前調査を実施し、**NKQ,STAI,KPCS** の3つの尺度の信頼性、妥当性を確認し、採用している。

研究成果：本健康教育プログラムを実施した介入群では、対照群に比べて、新生児ケアに関する知識得点が高く、新生児の受診率が低いこと、母親の **STAI** の得点が低いこと、母親の **KPCS** 得点が高いことが示された。これらのことから、本健康教育プログラムは、新生児の異常を予防し、母親の不安を低減し、母親の自信を向上させることがわかった。今後、本プログラムがネパールで展開されることで、ネパールの母子保健の向上が期待できる。一方で、研究データの分析において、特に、新生児の健康状態と健康教育内容に関しては

博士学位論文審査の要旨

更なる分析が必要であり、今後の課題といえる。

最終試験：審査会においては、本研究の目的、意義、ネパールの現状を踏まえた本研究の妥当性、信頼性、結果の解釈等について質疑が行われた。申請者からは、各質問に対して、真摯な態度で、本研究の限界、今後の課題を踏まえて適切な回答を得た。

これらのことから、論文審査及び最終試験の結果として、本研究は博士論文にあたいし、申請者は博士（看護学）の学位に相当する学識と研究能力を有していると判断する。